

一、次の文章をよく読んで問いに答えなさい。

藤原孝時は、琵琶という日本古来の弦楽器の並ぶ者のないめいしゆとして世に知られていた。孝時は、仏へのしんじんも深く、仏門にも入り、仏弟子としての名である法名を法探房とつけた。自分の屋敷に仏をまつるお堂をたて、楽音寺と名付けて、「阿釈妙楽音寺」という額を掲げていた。法探房はこの楽音寺を、楽器の練習場としても開放したので、管絃をたしなむ人たちが (A) 出入りしていた。この楽音寺には、阿弥陀様、お釈迦様、妙音天 (音楽の徳を施す女神) などをおまつりし、日々、有難いお経をとなえていた。また、音楽をえんそうして、それを仏様へのお供えとしていた。こうしたわけで、このお堂をそう名付けたのである。楽音寺に掲げられていた額は、藤原行能という人が書いたものである。行能は、書の名人として後世にまで名を知られた藤原行成七代の子孫で、行能自身も当代ではひるいなき書の名人であった。

この話は法探房が、楽音寺の額を書いてもらおうと行能のもとを訪ねたときのものであるが、このような道をきわめた名人たちの間では、時に不思議な出来事が起こるものである。

額を書いてもらおうと、ある年の八月一三日、法探房は綾小路にある行能の屋敷を訪ねた。行能はかねてから病気であったが、このときは (B) 病状が重く、起き上がることもできないほどであった。しかし、病床上に法探房を招き入れて、横になりながら対面をした。病状はかなり重いようで、腹がふくらみ、息をするのも苦しい様子。口にする言葉さえ、はつきりとはしなかった。苦しい息の下で、「こんな病床にお通しし、寝ながらお会いするのは大変失礼でためられることです。しかし、(C) これがあなとお会いできる最後の機会になるでしょうから、(D) お許しください。お越しくださったことは、思いがけなく、とてもうれしいことです。それにしましても、おいでくださったのはどういうわけでしょうか。」とたずねた。法探房は、「このようにご病気でおられたとは、(E) 存じ上げませんでした。少しばかり、お願いしたいことがありましたので、お訪ねしましたが、今のご様子をはいけんしましては、今回はご遠慮申し上げます。今度、お体が良くなればからお願いに参ります。」と答えた。しかし行能は、「確かに病気はこのように重いのですが、(F) おいでくださったのです。ともかくご用件をお話しくください。思いがけなくおいでいただきましたのに……。」と無理をして強く言ったので、法探房は額のことを話した。

法探房の話の聞くと、行能は大変驚いて両手を合わせ、はらはらと涙を流しながらこう言った。

「とても不思議なことです。だいが昔、近江の国 (今の滋賀県) から一人の僧がやって来て、寺の額を書いてほしいと頼まれたことがありました。その僧が言うには『近江の国にずいぶん古びて荒れ果てた寺がありました。この寺を大切にしたいが、寺が栄えてくれば、何かおそろしい魔のようなものがじゃまをします。寺の僧たちもその魔をおそれ、寺が持っている田畑も年を追うごとに、どんどん荒れていきました。この様子を見るにつけ、確かに魔のようなものはこわいのですが、寺が (G) 荒れていくのはとても悲しく、何とか栄えるようにしたいと思っています。そこで立派な額を掲げれば、このようなおそろしいことは起こらないと思いい、当代一の書家であるあなた様に額をお書きいただきたい。』ということでした。それを気のどくに思いい、その寺のために額を書くことにしたのでした。それから四、五年経ったところでしょうか、例の僧が再びやって来て、『書いてくださった額を掲げてからは、よくないことがまったくなくなりました。寺の僧たちも安心してつとめにはげみ、寺の田畑も豊作続きです。これをとても喜ばしく、有難いことだと思いいましたところ、これはあの額のお陰だと、夢でお告げがありました。とても有難いことだと、このことのご報告に参りました。』と手を合わせて言ったのです。

ところが、今月の八日、このように病気で寝ていたのですが、明け方、ある夢を見ました。天人と思われる人が額を持って来られ、『この額に書かれている文字がいたんでいる。しゅうふくしてほしい。』と額を私に手渡されました。見ると確かに以前、近江の国の寺のために書いた額です。なるほど、文字が少し消えかかっているところがあります。そこで、夢の中のことではありますが、文字を書き直して、天人にお返しいたしました。天人はとてもお喜びの様子でお帰りになろうとされましたが、ふとふり返って、『今から五日以内に、額を書いてほしいと頼む人が来る。必ず書いてあげなさい。これは仏様とのご縁につながるのだ。』とおっしゃった後に立ち去られました。そのとき夢からさめたのです。このことがあったので、今日か明日かと、心の中で待ち続けておりましたところ、今日で五日目となりました。そういうときに、あなたがおいでになって、私に額を依頼されたのです。これはきっと仏様とのご縁をいただける証しにちがいありません。さっそくにも筆をとるべきでしょうが、こういうわけですから、この額は精進し、身も心も清らかにしてから、書かなくてはなりません。この額を書き上げてしまうまでは、よもや死ぬことはありません。』と言って、涙を流しながら大変喜んだのであった。行能はさらに続けて、「おおよそ、世の中には諸芸の道にたずさわる人は多くいますが、あなたの道においては、あなたに並ぶ人はいないでしょう。書の道においては私も同じです。だから、夢で見たようにあなたがおいでになって、仏様とのご縁をいただけたのでしよう。』と、また感激の涙を流した。

この話は、けっしていい加減なものではない。法探房も、このことを自ら語っているし、また行能もこの出来事を記した書状を法探房に送っている。 (『古今著聞集』巻七 二九一「法探房、持仏堂楽音寺の額を行成七代の孫行能に依頼の事」)

- 問一 ——— a、jの部分を漢字に直しなさい(送り仮名が必要なものはそれも書くこと)。
- 問二 (A) (G) に入る最も適当なことを次の中から選んで、記号を書きなさい(同じ記号は二度以上使いません)。
ア たえず イ どうか ウ とくに エ おそらく オ せっかく カ まったく キ みるみる
- 問三 ——— A、B、Cの「と」「が」「ながら」と同じ意味で使われている文を次の中から一つ選んで、記号を書きなさい。
A アみんなはいやだと言った。 イあなたとお話がしたい。 ウ努力はむだとなった。 エこれは本物とちがう。
B ア春が来た。が、外は寒い。 イ疲れたが、休めない。 ウ昨日のことだが、事故があった。 エ私はこの服が着たい。
C ア知っているながら答えない。 イ昔ながらの町並み。 ウ泣きながら帰った。 エ失礼ながら先に帰ります。
- 問四 ——— 1、なぜこのお堂は「楽音寺」と名付けられたのですか。できるだけ文中のことばを使って答えなさい。
問五 ——— 2、なぜ行能は、これが法探房に会える最後の機会になると思ったのですか。
問六 ——— 3、「これ」とは具体的にどのようなことですか。できるだけ文中のことばを使って答えなさい。
問七 ——— 4、何を「待ち続けて」いたのですか。できるだけ文中のことばを使って答えなさい。
問八 ——— 5、「筆をとる」とは、ここでは具体的に何をすることですか。
問九 ——— 6、なぜこのようにしなければならぬのですか。できるだけ文中のことばを使って答えなさい。
問十 ——— 7、「あなたの道」とは具体的に何ですか。
問十一 ——— 8、何が「同じ」のですか。

二、次の文章をよく読んで問いに答えなさい。

(金谷武洋『日本語が世界を平和にするこれだけの理由』 原文の見出しは省略し、太字部分は通常の文字にした)

注1 英仏語……英語とフランス語。仏語はフランス語のこと。

注2 原文では、第一章はこの後に「ありがとう」以外の言葉についても書かれている。

注3 副詞……ここでは「動詞や形容詞を修飾することば」という意味で使われている。

問一 —— a～iの部分^①を漢字に直しなさい(送り仮名が必要なものはそれも書くこと)。

問二 (A)～(F)に入る最も適当なことばを次の中から選んで、記号を書きなさい(同じ記号は二度以上使いません)。

ア さて イ しかも ウ すると エ つまり オ ですから カ ところが

問三 —— 1、カナダのモントリオール市は「言葉の面で非常に刺激的で面白い街」だと筆者が言っているのはなぜですか。できるだけ文中のことばを使って答えなさい。

問四 —— 2、「そうした表現」とはどのようなものですか。文中から十二字ぬき出して答えなさい。

問五 —— 3、日本語と英語に違いがあるのは、それぞれがどのような言葉であるからだと筆者は言っていますか。文中から十三字、十二字ぬき出して答えなさい。

問六 —— 4、「ありがとう」の元々の意味は何ですか。文中から十字ぬき出して答えなさい。

問七 —— 5、英語の「Thank you」と違って、日本語の「ありがとう」のどういう点を指して「人間が一人もいない」と言っていますか。

問八 動詞、形容詞とは何ですか。それぞれできるだけ文中のことばを使って答えなさい。

受験番号

※この用紙には受験番号と解答以外は一切書いてはいけません。
 ※句読点やその他の記号も一字と数えます。

問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七	問八	問九	問十	問十一
f	A	A								
a										
	B	B								
g										
b	C	C								
	D									
h										
c	E									
	F									
i										
d										
	G									
j										
e										

二

問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七	問八
a	A			日本語			動詞
				英語			形容詞
	B						
g							
b	C						
	D						
h							
c	E						
	F						
i							
d							
e							